

# 藩翰譜續編

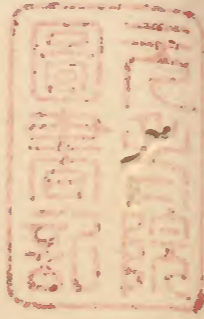
四中

和書門類			
八	九	九	四
一	九	一	函
一	〇	一	架
三	七	冊	

庫文閣内			
五	五	函	
八	三	七	冊
八	九	九	四
架	冊	號	類

内閣文庫			
番號	和	8994	
冊數	37 (22)		
函號	155	59	





藩翰譜續編卷之四中

大久保

加賀守忠朝  
伴豆守忠高

長門守教寬

石川

主殿頭憲之

若狹守總良

鳥井

左京亮忠則

内藤

左京大夫義恭  
丹波守政親  
和泉守勝忠  
大和守重頼

主殿頭政亮  
典前守式信  
上野守正勝

植村

石衛門 仇家貞

安部

丹波守 信之

渡邊

越中守 方綱

大久保

藤原忠貞

忠世

忠隣

忠常

忠職

某 新十郎

兼應三年二月四日卒  
四歲

忠倫 七郎 聖門

寛文三年十月三日卒八七

女子 早世

季之 三摩子水

万曆四年正月廿六日卒其父

忠朝

実右亮亮教准三男出羽守後五位下慶安四年八月廿六日叙任延宝五年六月廿五日改加賀守同辛酉年二月廿六日從四位下同辛酉年八月十八日侍從元禄十一年十一月廿六日致仕宝永二年九月廿二日改左次同六年正月廿三日剃髮号查入道正徳三年九月廿五日卒父法名松度院実那子圓

女子 早世

某 大藏

自享三年二月十日卒

女子 忠朝養女

某 能五郎

自享四年七月九日卒

某 幸磨

元禄七年七月朔日卒

忠方 傳吉郎

大藏右補少五位下

宝永三年十一月九日叙任

宝永三年九月廿三日改加賀守

享保三年十一月十八日從四位下

甲七年十一月廿三日卒甲子

法現成院圓山了知

教賢 圖書

石向也子總成養子

女子 早世

忠興 傳吉郎

出羽守後五位下

享保三年十一月十八日叙任

宝曆九年十一月廿七日從四位下

同十三年九月十日致仕

同十三年九月十日致仕

明和元年二月廿九日卒九十一

法真雲院仙巖了潤

忠増 大藏 大内藏

出羽守後五位下

享保三年十一月廿六日叙任

自享四年十一月廿六日致仕

元禄十三年十一月廿六日從四位下

宝永三年九月廿三日改加賀守

同十三年十一月廿六日侍從

宝永三年七月廿五日卒八十

法慈觀院太空了道

女子 早世

教保 三浦七郎 宇津未女 初御美

床女正位五位下 今太保能登守教知祖

某 万吉

元禄十五年八月三日卒

教達 六字

宇津出守教信養子

忠紀 外記

宝曆九年正月廿日卒

女子

許家松平主殿及忠長 忠長年嫁石内膝正徳 候

忠章 帶刀

天明六年九月九日卒

忠由

万次郎半次郎

大藏左衛門後五位下 寶延三年十一月廿日叙任 宝曆六年二月十日改安政守

忠顯

直次郎七郎等門

加賀守後五位下 安永三年十一月十日叙任

忠貞

秀次郎新十郎

女子

忠厚 新五郎

明和元年八月十九日卒

女子二人

野呂中将之知幸 油小路權中将隆珍室離別 嫁上秋駿河守勝定

忠彦

弘市

能登守教知養子後淨

女子

花房大膳職朝室

某 團之助是也

女子

某 太郎早世

女子

女子

朽木監物朝綱妻

教寬 帶刀

教端 帶刀

教起 直之丞

長門守位五位下

筑後守位五位下

長門守位五位下

元祿五年十一月十日叙任

宝永三年十一月九日叙任

寬延二年十一月十日叙任

享保十七年十一月廿七日叙任

寶保三年十一月晦日叙任

宝曆五年十一月廿二日叙任

隱

十六日叙任

三

元文二年十一月十七日叙任

法名直常院智生相坐

法名高峻院仁康教

十一日叙任

女子

女子

法名虎山院武秋宗男

某 子次郎 早世

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

教信 守律

某 藤之助 早世

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

出雲守位五位下

今三津權五郎教祖

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

實加賀守忠增女

教平 七兵衛

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

松平肉情守實守室

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子

女子二人

女子

實加賀守忠增女

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

松平肉情守實守室

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子二人 伊藤若狹守室 一人早世

女子二人

大保右亮其教明室 一人早世

教倫 吉之丞

教翅 金藏

某 若丸

長門守位五位下

大保保遠江守教道端男

女子

明和四年十一月十日叙任

返位下中務兵輔

女子二人

安永五年五月九日叙任

天明三年十一月十八日叙任

女子二人

法名觀達院水成二相

同享九年九月九日改長門守

女子二人

某 熊次郎 早世

女子二人

女子二人

忠為

彦子郎 權右所尉  
今太保彦忠著祖

元祿三年卒三十五

法名日宗

正信

權右所尉

忠知

源三郎 源左門 左馬允 從五位下  
寬永十三年十一月廿九日叙任  
正保元年十一月廿四日卒五十三  
法名由信院教亮日通

忠貞

彦子郎典前守  
今太保彦忠著祖

忠重

彦所尉

某 源三郎

寬文三年十月十九日卒

忠高

市郎

山城守從五位下  
寬文二年十一月廿七日叙任  
天和元年十一月廿六日改任  
元祿三年十一月廿六日改任  
同十二年九月十日致仕  
同十三年八月廿六日剃髮号  
道盤  
同十三年四月廿五日卒五十四  
法名高院院相嚴道盤

女子二人

青山藤左門幸典妻  
猶垣長門守重房室

女子

女子

常春

平八郎 市郎  
修理  
初名富忠在忠春

山城守從五位下  
寬永六年三月廿七日叙任  
同四年九月六日改信濃  
守  
寬保三年七月朔日從四位  
下  
同九年九月廿四日卒四歲  
法名高院院相極妙棧

忠位

平十郎 民部  
初名長 忠垣  
今太保大膳忠著祖

女子

早世

忠胤

市郎

伊豆守從五位下  
寬保三年十一月廿八日叙任  
同十三年七月十六日改山城  
守  
寶曆九年五月三日致仕  
安永元年八月二日卒七十  
法名在讓院受山徹忠

某

万次郎

早世

忠久

后四郎 俊忠信

貞享三年七月九日致仕  
享保七年七月廿四日卒  
今大保原四郎忠養祖

女子三人

牧野半右衛門忠清妻  
安藤喜右衛門重尚妻  
大保原前守忠隣妻

忠篤

傳三郎修理

元文三年九月十三日卒  
十八日  
今大保原又左衛門忠直祖

女子

早世

女子

早世

某

市十郎

元文三年十月六日卒

女子

实母藤大和守信周女  
户澤上統分正勝室

女子二人

一人早世

阿部因幡守正與室

女子

女子

早世

忠卿

后八郎

忠喜

藤九郎左卫

佐渡守俊左下  
宝曆八年十二月廿八日叙任  
明和四年七月改伊豆守  
元禄六年二月十日卒二十七  
法名源性院專相澄清

实忠胤三男  
俊左下伊豆守  
明和六年十二月廿八日叙任

某

千之介

天明三年正月八日卒

忠邦

内記

实松平至殿及忠恕三男

女子

忠邦室

女子四人

忠喜

藤五郎

女子二人

许嫁走部内近及正賀離別  
一人早世





山城の兵士十ヶ所日女より信國法皇の城より一  
封を平和寺抄りきふふ地之らる。公

～の秋は長らく白雲二年相持固也

～抄系抄又地節と人られ天正元祿七

年二日ゆき憲院殿忠告忠告

～このころ又百所の地から

**宗**ありきふふ日後信の作ありて日書を

ゆきしは十ヶ所之友奉也乃か別と及

～このころ二日の

～このころ十日より

忠告ありし人ありきふふ信院と忠告と

と信守長門を教書に旨は黄金を教書  
百箇に  
少はし  
これへ  
そのは  
女は  
也  
し  
十  
元  
の  
今  
の

子代少亮より一書ありもくあり此後  
三つ折りし月二十日ありて云録元十  
の八日病より一感ゆりし折ありし十  
又とほりし十午候に信下より一書ありし  
九日書下宛宛あり加賀より一書ありし  
信下より一書ありし折ありし  
才代より書ありし忠信子に書ありし  
信下より書ありし一書ありし  
家より書ありし國書教書と云川道より一書ありし  
中より書ありし弟女教書と云信下より一書ありし  
七書ありし折ありし一書ありし教書ハ叙文あり

中澤山雲より教書の折ありし忠信家信ありし後  
加賀より書ありし一書ありし信下より一書ありし  
折ありし書ありし一書ありし一書ありし  
忠信又ありし一書ありし一書ありし一書ありし  
乃同く信下より一書ありし一書ありし一書ありし  
大藏右衛門ありし折ありし一書ありし一書ありし  
又書ありし一書ありし一書ありし一書ありし  
十日書ありし一書ありし一書ありし一書ありし  
一書ありし一書ありし一書ありし一書ありし  
大藏少輔より一書ありし一書ありし一書ありし  
又大藏少輔より一書ありし一書ありし一書ありし

山本三十一日付の事  
其後各領に於て  
少くは其にせむ  
ては其を見し  
大分

長門も右京教書に如く忠誠の地なり  
三十一日付の事  
去中興の地なり  
其月には尾尾の地なり  
其後各領に於て  
少くは其にせむ  
ては其を見し  
大分

二十一日 豊原の國 その十日又忠納御行して百餘  
其後那 その十日又忠納御行して百餘  
の美 西陣 は 法 を して か 何 き 二十十日  
ある は 一 の 光 く 摺 は れ 下 原 の 地 ら へ  
り の 破 こ へ さ せ し 何 の 列 と へ  
あり ぬ 幸 深 三 十 の ま へ さ へ ひ 地 ら へ ら へ  
た ん 今 も 京 の 何 の 一 十 の を 蔵 ゆ へ ら へ  
し ら 中 身 の を 蔵 ゆ へ ら へ し 何 の 一 十 の を 蔵 ゆ へ ら へ  
し ら 中 身 の を 蔵 ゆ へ ら へ し 何 の 一 十 の を 蔵 ゆ へ ら へ

十九日 豊原の國 その十日又忠納御行して百餘  
其後那 その十日又忠納御行して百餘  
の美 西陣 は 法 を して か 何 き 二十十日  
ある は 一 の 光 く 摺 は れ 下 原 の 地 ら へ  
り の 破 こ へ さ せ し 何 の 列 と へ  
あり ぬ 幸 深 三 十 の ま へ さ へ ひ 地 ら へ ら へ  
た ん 今 も 京 の 何 の 一 十 の を 蔵 ゆ へ ら へ  
し ら 中 身 の を 蔵 ゆ へ ら へ し 何 の 一 十 の を 蔵 ゆ へ ら へ  
し ら 中 身 の を 蔵 ゆ へ ら へ し 何 の 一 十 の を 蔵 ゆ へ ら へ

てししこもさしし教養うせし年半中下り  
范後子教始は範永二十一日にありしゆをの  
し教養すも范永の後養保二十一日にありし  
ありし範子國の御方より多しゆも早世し  
く代三官身し重教起して教法しむ教起養  
二十一日にありしゆをの二十一日にありし  
教し長門にありしゆをの二十一日にありし  
く廿九日の子長門に教養すも范永の御方  
いしをれははははははははははははははは  
ししをれははははははははははははははは  
く日二十一日にありしゆをの二十一日にありし

乃遠しを教養す範子令免教起別しゆ下り  
廿一日にありしゆをの二十一日にありし  
姓ゆりし二十一日にありしゆをの二十一日にありし  
のり長門にありしゆをの二十一日にありし

伊賀守友系忠治は松平重忠の忠義を強うして為免  
忠治の事なりしゆをの二十一日にありし  
子より廿九日忠治の忠義を強うして為免  
とて廿九日忠治の忠義を強うして為免

廿一事の如く... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...

廿一日... 廿二日... 廿三日... 廿四日... 廿五日... 廿六日... 廿七日... 廿八日... 廿九日... 三十日...





石川

源忠總

廉勝

昌能

宗十郎

日向守後五位下  
宣和十一年十一月廿八日叙任  
天和二年四月廿廿日卒廿  
五文  
法名登圓院日頂

勝之

十勝 宗十郎

下野守後五位下  
元祿二年十一月廿廿日叙任  
享和三年二月廿七日卒  
三十五文  
法名法性院空山日住  
女子  
近江守總茂室

總慶

石之助

憲之

字即 初昌勝

主殿及後五位下  
兼應元年十一月廿九日叙  
任  
宝永三年二月廿五日致仕  
号恭息  
明和七年十月卒七十  
四又  
法名方四院恭恩周  
女子  
若狭守德良室  
九鬼内近及隆常室

義孝

主祝 初昌信

越前守位五位下  
元禄六年十一月廿日叙任  
宝永三年二月廿日改主殿  
及  
明和七年九月廿五日卒  
法名義孝院日意  
勝明 官内式部  
早世  
女子二人  
酒井備後守德心純室離別  
米倉丹後守昌昭室

總慶

石之介 字即

实勝之男  
主殿及後五位下  
享保三年十一月廿日叙任  
明和元年六月晦日卒六  
十一又  
法名總慶院厚仁有

女子

松平播磨守賴翁室

總英

吟次郎 字即

總純

吟次郎

下野守位五位下  
宝曆九年十一月十八日叙任  
同九年閏七月廿日卒廿三  
法名真院明月日念

女子

厚大和守忠大室

總亮

吉六

左近将監後五位下  
宝曆七年七月十八日叙任  
明和元年十月廿日改主  
殿及  
同和元年十月廿日卒廿又  
法名恭敬院大和日意  
女子  
若狭守德源室  
花園孝丸秀久室

總純

吟次郎 字即

实總英獨男  
同和元年後五位下  
安永三年十一月廿日叙任  
同和元年十二月十九  
又  
法名總純院圓月日耀

總博

内記 字十郎

实有内阿波守總恒男  
後五位下同守  
安永三年十一月廿日叙任

女子

總博室 早世

總師 孝之助 幸子郎

某 糸五郎

女子

某

總長

總良 傳太郎内膳

若狭守是五位下  
万正年十月廿日叙在  
貞享三年六月廿九日卒  
早野  
法名性院日顯

直清 因書  
加凡甲斐守直澄養子

女子

新藤美作守三郎妻  
三監奉嫁菅谷八郎  
長所臨改

總茂 主水内膳

近江守是五位下  
元禄九年十一月九日叙在  
享保二年九月十六日卒  
卒二文  
法名穢院圓嚴三應

忠明 大外孫右近  
今石川左内總彬祖

女子

近藤登助徳用妻

某 友次郎

宝永五年六月六日卒

總陽 三郎因書  
内膳

実大外孫加賀守忠増立男  
播磨守後五位下  
正徳三年十一月廿日叙在  
元文五年十一月七日叙在  
延享元年四月十日卒  
卒二文  
法名清徳院淨春圓填

總孝 權太郎 内膳

主水正後五位下

室曆十年五月廿八日叙任

明和六年七月朔日卒

四

法名法院日順

總賢 元三郎

室曆十年五月十三日卒

十八

總源 吉之丞 内膳

後任下遠江守

明和年十月廿八日叙任

後改若狹守

總候 寅之丞 内膳

実文伴縫殿统比勇

内膳正後五位下

元文九年十月廿八日叙任

後改若狹守

明和六年八月廿日卒

三

法名行院玄名日題

某 清之助 早世

總般 善之介 中務

女子四人

土方近江守雄邦室

小野對馬守忠美室離別

塚橋賴隆同守自巨離別

石門丸門總彬妻

石川

之故頭源憲とくはは源心大弼康持の嫡子なり  
 康持又また十一年しちねんに源心大弼康持の嫡子なり  
 之故頭源憲とくはは源心大弼康持の嫡子なり  
源心大弼康持の嫡子なり  
 十歳とせに源心大弼康持の嫡子なり  
 之故頭源憲とくはは源心大弼康持の嫡子なり  
源心大弼康持の嫡子なり  
 之のりのり源心大弼康持の嫡子なり  
 其れこれ十一年しちねんに源心大弼康持の嫡子なり

嫡子日嗣りしかば嫡孫日嗣り物とてさへもさへ  
て母をさへりしはこれにさへも後代を いふは  
七代とすり義孝也 二十 一  
元禄元年の夏申奥に危候より四月六日  
従五位下 飛騨守 丹波守 藤原氏 父の次子 日  
家とては 一  
ありしは 一  
多し 一  
十一年 一  
日 一  
を叙するし 一

元禄元年の夏 板倉月降の 咄 伝説 元禄元年  
つとま 一  
此れは 一  
この後 一  
家 一  
元禄元年 一  
日 一  
日 一

ある遺物と云ふいかにきかぬと云ふはさういふ  
いふはさういふ遺物と云ふはさういふ  
いふはさういふ遺物と云ふはさういふ  
いふはさういふ遺物と云ふはさういふ

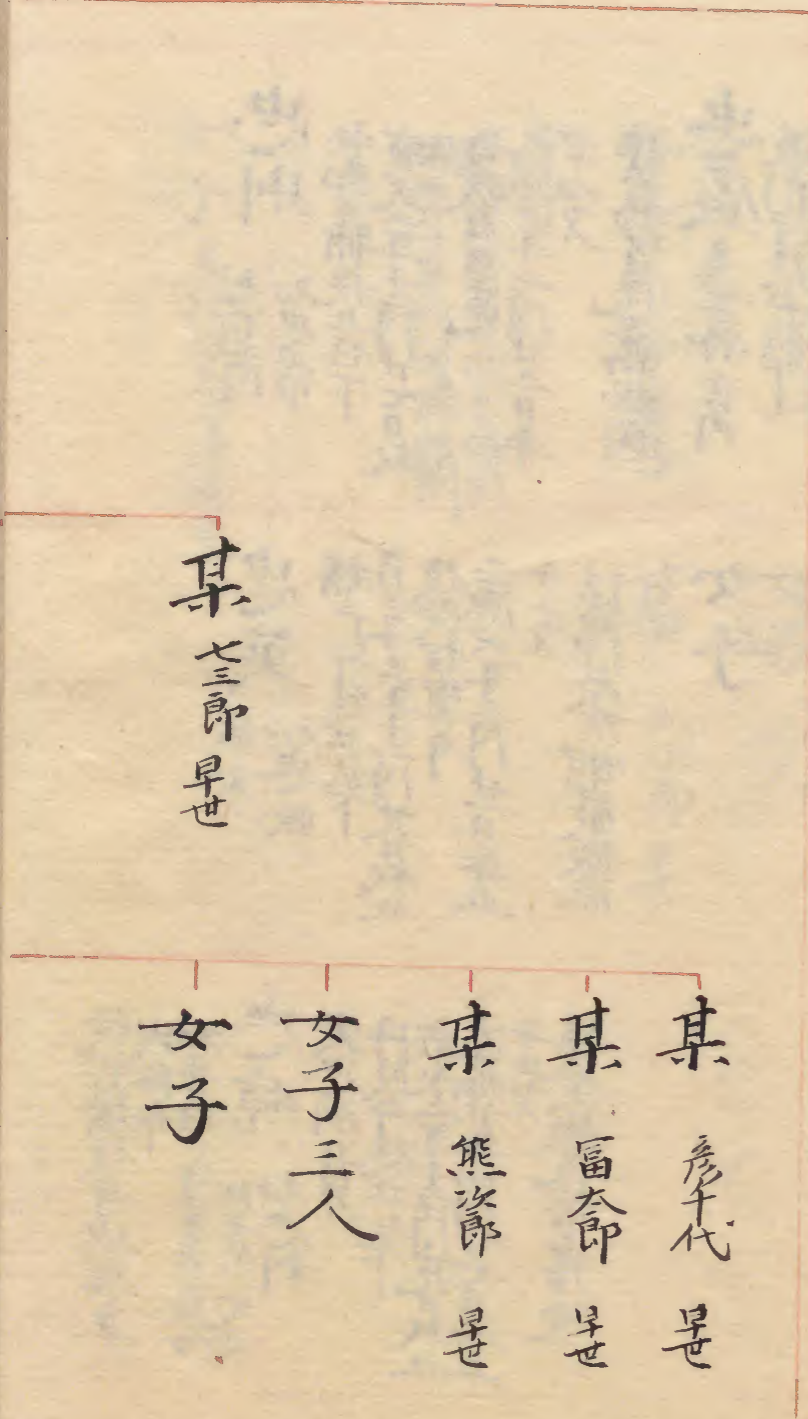
若狭中津原長尾村に於て長尾村長尾村長尾村長尾村  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日

乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日  
乃久敏彦一貴文元十十日廿九日廿九日廿九日

家傳云一後之文女一嫡子一と云々  
 其嗣ありしはたふ保津原保津之宮内孫保津と  
 云々云々と此傳の保津原之文女十の去姫と傳す  
 一の九女身一て内孫可なり一と云々  
 其女十十八日吉辛丁十午亥子之入り一嫡子  
 二宮一と云々一はた之宮内孫保津原と傳す  
 十日十午保津原と傳す一はた八午酉と一と云々  
 その九日保津原と傳す一はた一と云々  
 其女十十八日吉辛丁十午亥子之入り一嫡子

鳥居

平忠春





忠則

長門守 初忠常

無部長補後五位下  
實文三年十一月廿七日叙

後改左亮

元祿三年七月廿三日卒

早四又

法名淨光院大高幽閑

忠辰 長門守 高

長門守 長五位下

女子二人

山内次郎大夫一俊妻  
新庄佐守直堅室

忠英

宋女 初忠敏

播磨守後五位下  
自享三年十一月廿日叙任

後改伊賀守

正徳六年三月廿日卒五

十二又

法名淨光院桃巖徹源

女子

某 元代

池本門守芳子玄昇院

某 虎代 早世

忠虎

長門守 早世

女子二人

松平左大夫直昌妻  
鳥居大夫成勝妻

忠雄 龜負

攝津守 長門守 長子

女子

知久伊左門昌直妻 離別  
嫁春日左門 長陣 離別

女子 島津但馬守忠雅室

忠暎 熊代

某 龜代

女子二人

某 大次郎 早世

忠暎

初忠利

丹波守後五位下  
寶永三年十一月廿日叙任

享保三年四月廿七日卒五

十二又

法名淨光院德善淨燈

牧野備後守成與室

成與室 松平薩守直實養女

忠意

能平代  
初忠胤 忠厚

後立位下伊賀守  
享保九年三月十日  
叙任  
後改丹波守  
天明元年九月十八日  
正下  
享保九年三月七日侍從

忠翰

系永  
交保伊勢守德養子

女子

忠亮

氏部

女子二人

忠永

豊丸新太郎  
初忠高

後立位下播磨守  
享保五年三月十八日叙任

女子

定恒

坪内

式部

某

熊藏

忠計

内藏少

忠貴

虎丸新命

女子三人

某

寸之進

竹村權左衛門嘉品養子

某

益之介早世

忠見

兵庫

元恭

從殿少

笛正膳元倚養子

女子

高木系永正正郎室

女子

某

内藏 早世

女子二人

花房大膳職雅妻  
花房内膳守正誠養女

女子

織田院守秀錦室

離別  
坂上屋山城守業直

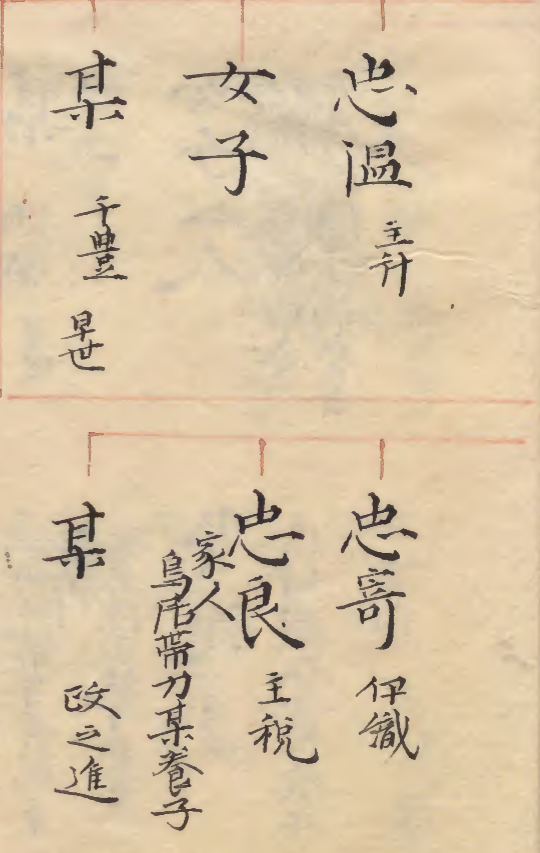
安昶

隼人

戸内藏人安照養子

鳥居

左系亮平忠朝ハ之陪正忠春 忠定 嫡方なり  
 万治二十一年日暮らるる一々一河内 平次父二  
 年の冬叙年一て多岐郡より一 後平次父  
 松河一さ二十一年日暮らるる 遺灰をいふ  
 信濃守之世の 其のち元禄二十一年の冬馬場先の  
 御三方之言也  
 信濃守一の御輩乃信守後某相氣一りるや  
 ある夜少といそ平家相氣より危民衆の家  
 よりぬくの事ありあはれた家人未あ中三捕り  
 奉り下つ御ふさうらへ事ある方より御也



水口水口の城は天和二十  
 一  
 ありしをせぬいその子に賀さ思ふく徳念因  
 里村里村をいふく徳念因りて石を道の城  
 をい収ませむ忠實をいふく徳念二十の  
 秋初に徳念徳念その冬叙命に播磨をい  
 行に徳念徳念之孫小年の美地ららぬ道念  
 出の城といふ徳念家永二十の秋に徳念の  
 事をもりち秋の月を並りて徳念の二十日女  
 七かおの城といふ二十去りてい地をいふ  
 下徳念子の城といふ徳念家永二十の秋に徳念の  
 二十日女といふ二十去りて徳念の二十日女  
 家永といふ之孫を二十日女といふ二十日女

水口の城は天和二十  
 一  
 ありしをせぬいその子に賀さ思ふく徳念因  
 里村里村をいふく徳念因りて石を道の城  
 をい収ませむ忠實をいふく徳念二十の  
 秋初に徳念徳念その冬叙命に播磨をい  
 行に徳念徳念之孫小年の美地ららぬ道念  
 出の城といふ徳念家永二十の秋に徳念の  
 事をもりち秋の月を並りて徳念の二十日女  
 七かおの城といふ二十去りてい地をいふ  
 下徳念子の城といふ徳念家永二十の秋に徳念の  
 二十日女といふ二十去りて徳念の二十日女  
 家永といふ之孫を二十日女といふ二十日女

忠別も初見かすむく道念せむをいふ  
 その秋に徳念二十日女に徳念二十日女  
 及子に徳念二十日女に徳念二十日女  
 ありしをせぬいその子に賀さ思ふく徳念因  
 里村里村をいふく徳念因りて石を道の城  
 をい収ませむ忠實をいふく徳念二十の  
 秋初に徳念徳念その冬叙命に播磨をい  
 行に徳念徳念之孫小年の美地ららぬ道念  
 出の城といふ徳念家永二十の秋に徳念の  
 事をもりち秋の月を並りて徳念の二十日女  
 七かおの城といふ二十去りてい地をいふ  
 下徳念子の城といふ徳念家永二十の秋に徳念の  
 二十日女といふ二十去りて徳念の二十日女  
 家永といふ之孫を二十日女といふ二十日女



内藤

藤原義清

清長

家長

信成

改長

忠興

女子二人  
本堂隱七郎采親妻  
土方内守雄次室

義邦 左衛門  
是

義英 右衛門  
是

下野守屋五郎下  
實文十一年十二月廿八日叙任  
後依病薨居  
享傳十一年九月十四日卒  
七十九又  
法名光顯院徹山

女子三人

小出備前守英安室  
岡部美濃守宣就室

改樹 典松

信改 鍋代守吉

女子二人

松平紀伊守信峰室  
松平播磨守賴永室

義覺 藤九賴母  
依病薨居

享傳三年十二月廿五日卒  
二十二又

義恭 万菊  
初賴長交概

左近亮後位下  
實永十三年十二月十九日叙任  
貞享九年十二月廿五日後  
四位下  
改左近亮  
四年九月九日卒  
七歳  
法名華齡院風山

義存 藤九  
一

能登守後位下  
貞享九年十二月廿五日叙任  
享傳三年十二月廿五日卒  
廿又  
法名冬玄院茂山  
女子  
實山前藤守勝平女  
平園市十郎賴重妻

義稠 少郎

右近亮後位下  
享傳三年三月廿七日叙任  
享傳三年九月廿九日卒  
二十又  
法名郭寒院圓山  
女子  
松平紀伊守信峰室

女子 山前主水有相妻  
改亮

左近亮後位下  
享傳三年十二月廿六日叙任  
四年二月十六日卒十九又  
法名恒彰院腹山

政樹

典松式部

實下野守英長男  
備後守位五任下  
享保三年十一月廿八日叙任  
室曆六年十月廿日叙任  
利發号兼山  
明和三年九月廿日卒  
卒四十八  
法名嚴正院兼山

政陽

億分

實山城守政重三男  
能登守位五任下  
室曆四年十一月廿日叙任  
明和七年十一月廿日叙任  
天明九年五月廿日卒  
卒四十五  
法名應教院法山

政脩

德十郎

實尾中納言宗勝以  
十四男  
備後守位五任下  
明和七年十一月廿日叙任

女子

政脩室

政韶

五郎松金郎

政峻

裁子藏

美興

十二女  
早世

東市正

政亮

稱遠山百少主殿  
一百八字

主殿及後守位下  
實文十年十一月廿八日叙任  
元禄六年十一月廿日卒  
十九  
法名實性院圓光山

女子二人

實西尾典後守喜教女  
堀式部共補直昌室  
實東市正美興女  
飯房因幡守忠晴室

政徳

三郎末馬

實堀主升及自行二男  
内膳正位五任下  
元禄三年十一月廿日叙任  
明和六年五月十三日卒  
三  
十歳  
法名養嚴院光雲山

女子

實高權美高寬女

政貞

長十郎主殿

實土方氏戸雄實三男  
元禄六年七月廿日叙任  
本氏  
主殿及後守位下  
室永六年三月廿日叙任  
享保七年四月廿三日卒  
二十九  
法名智光院泰仁勇山



政醇

銀一郎

改令改

播磨守後五位下  
享保十一年十二月十八日叙任  
寛保九年九月廿三日卒三  
十又  
法名不忠院風帆故山

女子二人

實

一人早世

齊藤右近三武妻後嫁  
前因隱岐守玄長

女子二人

一人早世

前因隱岐守玄長養女

改為

銀一郎

初正親

改業

銀一郎

初亮長

後五位下播磨守  
宝曆六年十一月六日叙任  
日十一年十月廿四日致仕  
安永三年四月十日号

改勝

百少早世

貞幹

元進

實紀伊大納言宗直  
六男  
至殿及後五位下  
宝曆十一年十二月十八日叙  
任  
明和六年八月十五日改  
任  
伊賀守  
同年八月廿三日改因  
播磨守  
安永六年六月廿三日卒  
三十三又  
法名德院 愍山

安永七年育廿日依病筥居

改廣

雅之進

某

改吉 早世

改偏

若三郎新三郎

女子

長荷若吉勝字妻

改晴

某 大子 早世

某 縫殿少 早世

女子

北条左近氏朝室

某

改親

金郎 右近  
初改直

右近交後五位下  
元禄四年七月廿日叙在  
元禄四年七月廿日改丹波守  
元禄四年十月廿日卒  
法善徳院門卷總持貫山

改本林

山城守後五位下  
元禄四年十月廿日叙在  
元禄四年九月廿日改丹  
波守  
享保十年四月廿日致仕  
刑部号向山

改里

三郎 金一郎

山城守後五位下  
享保十年十月廿日叙在  
延享三年四月廿日卒  
法善信院門卷總持貫山

女子

大田但備前守建清室  
建清卒嫁佐竹室改守  
及通

改則

主馬 敦直

延享三年十月廿日卒

元文三年五月廿日卒  
法善徳院門卷總持貫山

改苗

金郎

丹波守後五位下  
室曆七年十月廿日叙在  
明和三年十月廿日致仕  
安永三年七月廿日致仕  
獨山

改陽

億介

某

金郎 早世

學文

鉄之助  
初改養

實紀伊守宗將之四男  
山城守後五位下  
明和三年十月十九日叙在  
安永三年二月廿日改丹波守  
天明三年九月廿日復在將監

改平

秀三郎 式部

某

大吉 早世

備後守改樹養子

某 富五郎 是

女子 是

某 幸五郎 是

女子 阿部遠江守元室

女子二人

今并彦次郎好用妻離別  
婿曾根内道長解  
神吉大和守長俊養女

信心

信照

信良

女子

國部播守正敷室

信貞 藤六郎

寛文三年三月四日奉

十四日  
法名忠休

式信

命之次  
初信勝

宗内藤伊勢守信光二男

紀伊守後五位下

延享元年正月十五日後四

位下

正徳三年二月十五日侍從

享保十年二月十八日致仕

同享保十年正月廿一日卒

年三十一

信輝

初信季

宗前守長信二男

典前守後五位下

元禄元年十一月十日叙任

宝永六年九月十九日改

伊守

享保十年二月十九日改紀

伊守

同享保十年正月廿四日卒

法名淨眼

女子二人 是

信積 彦次郎

享保十年三月十六日卒

十六日  
法名淨徹

女子 是

女子

美式信女  
相馬因幡守徳胤室

信興

初三郎

紀伊守後五位下

元禄元年十一月十日叙任

享保十年二月廿一日改

同享保十年正月廿四日卒

法名淨眼

女子

實 市三周女  
飯訪賴母賴杖妻

女子二人

内藤越前守信明室  
一人早世

信輝

信十郎

信盛

勝之次

内藤兵庫信之養子

秀寿

無部

中坊大和守秀廣養子

高長

内匠

京極藤原高養子

女子

早世

某

典松 是

安永九年九月廿日卒年  
一歳

法名道温

女子

水野高守勝前室

女子

早世

某

早世

女子

信輝養女

信庸

越前守

内藤越前守信明養子

信加

貞五郎 三左門

信凭

富九

女子

堀幸之助親室

信敷

徳九

典前守定五郎下

宝曆二年十月廿日叙任

明年二月十七日卒七

十七

女子

早世

信凭

富九

女子二人

阿部駿河守正智室  
松平兵庫及直行室

頼尚

勇之助

内藤大和守頼由養子

実信與三男

紀伊守定五郎下

明和九年正月廿日叙任

天明元年二月十九日卒

三十四

女子

早世

某

剛松

早世

女子二人

共早世

女子二人

某

龜子代 早世

忠卿

忠政

清成

清次

清政

正勝

長賴

長五郎 主殿  
初信行

實安部丹波守

土佐守送五位下

元禄十三年十一月廿日

叙任

早云二年二月九日帰之

其家

女子二人

一人早世

高木播磨守正府正三郎奉

某

松之次

寛永三年丙寅卒三又

清枝

半在門  
初寺典清長

女子二人

森川下野守 高室  
二人早世

賴卿

吉原三郎

伊賀守送五位下

貞享元年七月廿日叙任

同元年十二月廿日改大和守

法名良如院德養純仁性空

女子

朽木左衛守玄綱室

童賴

三郎

若狭守送五位下

寛文元年七月廿日叙任

貞享元年十一月廿日改伊

賀守

同元年六月廿日改大和守

侍從

元禄元年十一月廿日卒六

十三又

法名 院德養常光性

女子

水野備中守守政室

其 吉十郎

宝曆九年十一月廿五日

賴寛 徳五郎 吉十郎

宝曆九年十一月廿五日

丹波守 信三郎

宝曆九年十一月廿五日

賴多 吉十郎

宝曆九年十一月廿五日

丹波守 信三郎

宝曆九年十一月廿五日

賴少 吉十郎

宝曆九年十一月廿五日

丹波守 信三郎

宝曆九年十一月廿五日

長好 鉄之進

女子 御能寺利角室

長好 鉄之進

實賴多男

賴由 左近  
實永井伊豆守高政六男  
大和守 信五郎下  
元文九年十二月十六日

法名 源隆院 譽徳道翁

女子

忠重

忠政

忠次 甚十郎

女子

志产寺定在位下  
万治三年十一月廿八日  
後依病薨  
宝永九年五月廿六日  
法名 性院 同心

板倉忠政守重常養女

女子二人

忠勝 高七郎

和泉守位下  
寛平元年十月廿八日叙任  
延宝元年六月廿七日切服  
二十七歳家絶  
法名淨那院直心

忠知 虎之介伊織

寛平元年二月廿三日卒  
六文  
今内藤甚十郎惠温祖

女子四人

户田肥後守氏西室  
安部兼律守信友室  
菅原伊賀守定當妻  
浅野康女正長友室

正次

仁左門 式部補後位下寛永十九年四月十八日叙任  
寛平元年八月廿九日法名善樹院法香清傳

正勝 平八郎

実内藤仁左門正權長男  
上野分後位下  
寛文元年十月廿九日叙任  
元禄元年八月廿七日卒  
三文  
法名慈心院圓香照應

女子二人

正勝室  
小栗莊次郎正重妻

正友 仁左門

式部補後位下  
元禄元年十月廿四日叙任  
正徳元年八月十七日卒  
十九文  
法名瑞雲院法香英龜

正能 長三郎

元禄四年九月四日卒

正教 式部 仁左門

下總守後位下  
寛平元年十月十八日叙任  
延享元年八月十三日卒  
十三文  
法名長友院開香映心

正直 平八郎

今内藤若七郎正香祖

女子二人

今世三郎實實妻離別  
一人早世

正綱 仁五門

美濃守位下  
延享三年十一月廿日叙任  
明和元年六月十日卒  
早子  
密旨院明誓子也

賴寛 徳五郎 作三郎

大和守賴由養子

正壽 式部

明和元年六月十日卒  
十二交

正興 秀之介

後位下志戸守  
安永元年十一月十日叙任

某 秀之介 早也

女子

河藤 附和泉守忠勝

乃系ら又和泉守忠勝 後鳥羽院 八節刀忠勝の子なり  
安永四年十一月廿日見事 如前 十一月十日  
從五位下和泉守忠勝 叙任 安永十年忠勝没後  
一ノ宮とて 隆和子 延享四年 才方叙任 忠勝没後 下位  
コノ川 隆和子 安永十年の九月 從五位下 忠勝没後 乃系  
より心 以れ 十月 忠勝没後 忠勝没後 乃系  
卒 子 嫡子 孫 忠勝 乃系 忠勝 乃系 乃系  
忠勝 乃系 忠勝 乃系 忠勝 乃系 忠勝 乃系  
初見 叙任 乃系 忠勝 乃系 忠勝 乃系 忠勝 乃系







二十の秋は、  
 一、  
 非道以表はる

丹波や左京の秋、  
 正保二十二年八月八日、  
 有通受、  
 二十二年八月

上師の國安中の秋、  
 又別子にまゝを日、  
 之孫十中、  
 之國安中、  
 言、  
 又別子にまゝを日、  
 之孫十中、  
 之國安中、  
 言、

丹波の秋、  
 正保二十二年八月八日、  
 有通受、  
 二十二年八月

三行國事母の地は三本  
 之十部多美門の忠利  
 物りく嗣忠次之忠實  
 之り母之忠實子  
 道之忠實地之忠實  
 之り母之忠實子  
 道之忠實地之忠實

備前守の地は十部多美門の忠利  
 物りく嗣忠次之忠實  
 之り母之忠實子  
 道之忠實地之忠實  
 備前守の地は十部多美門の忠利  
 物りく嗣忠次之忠實  
 之り母之忠實子  
 道之忠實地之忠實  
 備前守の地は十部多美門の忠利  
 物りく嗣忠次之忠實  
 之り母之忠實子  
 道之忠實地之忠實

備前守の地は十部多美門の忠利  
 物りく嗣忠次之忠實  
 之り母之忠實子  
 道之忠實地之忠實

内藤

豊前守友原氏信信物よりハ一統の事ヲ信スル  
 二万ノ一ト述ビテ千豊前守信長ノ志ヲ以テ  
 十日辰時一ツノ事ニテ是ト信ス隆興の子相合の  
城守方ニ由リ  
 室永平ノ夏駿河ノ國田中ノ城ニ由リ右田守  
資通ノ代  
 正徳二十七日辰ノ時也此ノ城ニ由リノ一信  
 ノ事ニテ是ノ事ニ由リ右田守  
資通ノ代信長平  
 自城守トシテ是ノ城守トシテ一ノ事ニ  
 由リテ是ノ事ニ由リ又新田守トシテ一ノ事  
 由リテ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ

村上ノ城内藤氏守ハ一統ノ事ニ由リ  
 去後ノ一ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ  
 信輝定氏信長信長ノ事ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ  
 由リテ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ  
 豊前守一ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ  
 此ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ  
 正徳二十七日辰ノ時也此ノ城ニ由リノ一信  
 ノ事ニテ是ノ事ニ由リ右田守  
資通ノ代信長平  
 自城守トシテ是ノ城守トシテ一ノ事ニ  
 由リテ是ノ事ニ由リ又新田守トシテ一ノ事  
 由リテ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ是ノ事ニ由リ











下下元和二十の九はしりし人 寺りし書院乃  
米倉の寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り  
寺り 常米寺言 費小十十有陸の寺り

改料今もて常地と云ふ物なり 手記あり 貞享二年の秋  
書院の米倉の寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋  
寺り 手記あり 貞享二年の秋



元祿三年四月十四日卒  
七十三  
法名恭祥院一條空頭

法名高性院當山善玄  
改明 外記  
今植村多宮改祖  
改登 節三郎主殿  
今植村隼人三智祖

後改出羽守  
享保十二年九月廿日卒  
七十三  
法名善院仁岳道義

女子  
九鬼丹皮守隆祿守

某 新六郎 早世  
某 稻之助 早世

家包 初改之

實内記改廣福男  
刑部補後五位下  
享保四年十月十八日叙任

家道 三藏

實家教四男  
出羽守後五位下  
延享二年九月十八日叙任

家久 九郎八新節

出羽守後五位下  
明和元年十月十八日叙任  
安永七年十月廿日卒

後改出羽守  
元文三年八月廿日卒九  
法名隨緣院美光世道

女子二人

板倉律守勝貞室  
板倉律守保貞室

家道 三藏

女子

板倉律守勝血健室

女子二人

延享二年十月十八日叙任  
明和四年三月廿日卒世  
法名覺院觀道性志  
大村彈正女御統保室  
時田伊勢守定徳室

女子

三浦長門守為備室

某 集太 早世

七藏  
法名觀院頼培室圓

家長 能立即能之助  
無部

能家村  
刑部補後五位下  
天明五年十月十八日叙任

義行 肥前守

佐野基房及德行養子

女子

受前三位道直石室

家利 六郎

某 要之助 早世

家利

実家道四男

出羽守後五位下

安永年十一月廿九日叙任

後改右五門位

天明元年四月廿四日卒三

七文

女子二人

某 鉄喜子

改春 市丞 大膳

志二守後五位下

寛文六年十二月廿九日叙任

同年五月廿五日卒三十一

政行 大膳

自享元年六月三日卒廿七

歳

法名乘院院鳳蒼芳玄

改勝 内通

宝永四年六月廿日卒三

七文

法名水也院壽玄日玄

法名曉院院善宗哲

女子

佐野典兼守直行妻

女子

女子

飯房甚四郎頼寛妻

行長 万次郎

女子

佐野吉之丞信行妻

政廣 万次郎内記 初行長

实改 二男

享保廿年八月廿五日卒四

十一文

法名輝光院廓蒼盛雲

家包 刑部

女子

服坂主計安盛妻

女子

某 市十郎 早世



女ハ... 所ナシシ  
延子信下在事ハ... 延保十一年十月廿七日  
卒す... 延保十一年十月廿七日  
あそけ... 延保十一年十月廿七日  
家勢ハ... 延保十一年十月廿七日  
九月廿七日... 延保十一年十月廿七日  
卒す... 延保十一年十月廿七日  
又... 延保十一年十月廿七日  
延保十一年十月廿七日... 延保十一年十月廿七日  
一... 延保十一年十月廿七日

家... 延保十一年十月廿七日  
先... 延保十一年十月廿七日  
二... 延保十一年十月廿七日  
その... 延保十一年十月廿七日  
十月... 延保十一年十月廿七日  
其... 延保十一年十月廿七日  
家... 延保十一年十月廿七日  
御... 延保十一年十月廿七日

安部

源信盛

信之 左一郎

丹波守俊五位下  
寛承九年十二月廿日叙任  
延宝六年四月二日叙任  
天明三年七月廿日卒  
年六十四  
法名性実元忠

信孝 平三郎 早世

真信 内藏丞 一作元

今安部五郎信長祖

信友 左一郎

摂津守俊五位下  
寛文八年十月廿七日叙任  
元禄四年三月廿日卒  
年六十四  
法名徹應宗准

信厚 左九郎

丹波守俊五位下  
元禄七年十一月二日叙任  
今安部助九郎信早祖

信世 伊織 主計

信峰 左一郎

丹波守俊五位下  
自寛三年十一月廿日叙任  
宝永三年九月廿日卒  
年四十八  
法名仁峯茂寛

信方 左十郎

今安部左京信首祖

女子 早世



信政 佐若門

今安部又四郎信門祖

信義 主膳 初信秀

今安部能五郎信祖

信重 内通

依病寢居

信直 序平次

子孫断絶

女子四人

少生子平次而宗室  
向升在衛門直三妻  
服部木之助果妻  
仙石石近久信妻

信治 勝之助

女子四人

松平久馬政武妻  
松平主税忠明妻  
小瀬孫三郎果妻  
秋長

信與 小三郎

逸見五門兼實養子

一信 又四郎

安部主水信美養子

女子

信直養女

某 小年次 早世

信賢 佐若門 初信明信治

撰津守佐五位下

宝永六年三月七日叙任

享保八年二月七日卒三十九

法名春嶺宗融

信行 長九郎

内藤丹後守清養養子

信政 縫殿 今安部主吉信富祖

女子 松平左衛門忠盛妻

信平 鉄十郎多吉

撰津守佐五位下

享保十六年十二月廿三日叙任

寛延三年四月廿五日卒五十七

法名空巖院良心

女子 早世 某 岩次郎 早世

女子 实信友女

中根大隅守三利妻

信昌 友四郎

安部主水信曲養子

信允 安三郎 佐若門

实安部十郎信與三男

丹波守佐五位下

寛延三年十二月十八日叙任

後改攝津守 天明三年九月十日叙任

改主水正後剃髮 女子 早世

信亨

孫一郎

丹波守後五位下

安永四年壬子二月十日

歿任

後改采女正撰津守

信宗

大之丞半兵衛  
初正房

日向守兵衛正武養子

女子四人

榊次信康守里之幸

石川孝太郎正直室

松平主馬康休妻

安部兵部信盛妻

信武

乙次郎  
後通願

稻葉多富通府養子

某

孫一郎  
早世

女子二人

某

金作  
是

女子

信清

和二郎

女子二人

一人早世

安部左兵衛信首養女

安部

丹波古原信信守の嫡子其は保神源盛

守守より一徳川の由り地より信信守九平の由

叙行一信信守之平より又改行して其を信守

曲義の國名の由り地より信信守の由り地より信信守の由り地より

子信信守の由り地の定業より三河國より

平原の地傳りたりられ信信守の由り地より

女子の由り地より信信守の由り地の平の阿日より嫡子

梅守信守の由り地より信信守の由り地の平の阿日より嫡子

二平の由り地より信信守の由り地の平の阿日より嫡子



渡邊

源吉網

近網 半休

慶安四年八月十日奉<sub>法名空心</sub>半休

利網 半休 半休 是世

方網 半休 初正網

越中守後五位下  
万治三年上<sub>法名道用</sub>月廿七日叙任  
延宝三年<sub>二歲</sub>月朔日奉<sub>法名道用</sub>半休

豊網 大守

寛文九年六月廿六日奉

某 半休 是世

某 勝十代 是世

基網 半次郎 主殿

實渡邊藤藏長頼嫡男  
備中守後五位下  
元禄十四年四月四日叙任  
享保三年七月廿日奉<sub>法名廣直</sub>半休  
十四歲

登網 源七郎

駿河守後五位下  
宝永五年十一月廿日叙任  
後改丹波守越中守  
明和四年九月十日叙任  
同年十一月廿日奉<sub>法名廣直</sub>半休  
十四歲

則綱 半六 早世

女子二人  
内藤八之丞信光妻  
山田金吾所慶紀妻

女子四人

基綱室  
三人早世

某 多子郎 早世

女子三人

高木求馬允負妻  
一人早世

某 半五郎 早世

大塔院行

女子

近江國野洲郡錦織寺  
良慈上人妻

法名道基

女子二人

戸田徳七郎光言妻  
一人早世

某 半次郎 早世

女子

尾張家人志水甲斐守  
忠栄妻離別嫁酒井鐵戸  
忠雄離別

弘長 右近

山口伊豆守公典養子

女子二人

長吉川喜内勝清妻  
一人早世

克綱 源十郎 右近  
大進

依病篤居

明和七年七月八日卒四七

法名淨覺

女子

許嫁酒井徹戸忠雄卒

信綱 源三郎 左殿

典前守位五位下

明和四年十一月十六日叙任

安永三年三月廿二日卒四

十六

法名道現

某 鉄之介 早世

朝綱 左膳 早世

女子 早世

某 源藏

宝曆六年十月十五日卒

女子一人

一人早世

松平法路守也負養女

伊綱 龜松 源十郎

後五位下丹後守

安永三年十一月十日叙任

天明三年四月十日叙任

同年七月九日改中務丞補

女子

中根内膳正器妻

某綱 金次

某綱 金次

实信綱三男

越中守位五位下

天明三年十二月十八日叙

任

因軍曹上段駿河守

女子

俊綱 為作 是

女子

早世 馬三愛妻離別

某

酒三郎 是

女子

早世

信男 権之丞

松平仙橘 信右衛門

女子

渡辺主計房 綱妻

某

鶴吉 是

春綱 仲之進

某 三郎

亮綱 庵五郎

某 俊次郎

渡邊

越中守源光朝 正徳  
 六月八日 十女ありて 一は 俊綱 仲之進 是 二は 亮綱 庵五郎 是 三は 俊綱 為作 是 四は 亮綱 某 是 五は 亮綱 女子 是 六は 亮綱 女子 是 七は 亮綱 女子 是 八は 亮綱 女子 是 九は 亮綱 女子 是 十は 亮綱 女子 是

俊綱 為作 是 俊綱 亮綱 某 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是

俊綱 為作 是 俊綱 亮綱 某 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是

俊綱 為作 是 俊綱 亮綱 某 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是 俊綱 女子 是



大八下... 中... 主... 孫... 日... 年... 婦... 信... 子... 母... 子... 子...

嗣... 後... 子... 信... 下... 中... 大...



